

大学 ICT 推進協議会 (AXIES) 年次大会報告

神戸大学 情報基盤センター

1. 年次大会の概要

開催日 : 2011年12月7日(水)～9日(金)
 会場 : 福岡国際会議場
 参加総数 : 924名
 来賓等 : 5名
 参加者数 : 583名 (会員:292名, 非会員:278名, 学生:13名)
 展示会関係参加者 : 336名 (48ブース)
 発表件数 : 166件
 基調講演:2件, 特別講演:1件, 企画セッション:21件,
 一般セッション142件 (口頭発表:107件, ポスター発表:35件)

2. 神戸大学からの参加者

武田 廣 (CIO)
 蛭名 邦禎 (情報基盤センター長)
 鳩野 逸生 (情報基盤センター副センター長) 一般セッション発表者
 尾川 正美 (情報基盤センター特命教授)
 伴 好弘 (" 准教授) 一般セッション発表者
 熊本 悦子 (" 准教授) 一般セッション発表者
 北内 一行 (" センターシステム係)
 田坂 和博 (" ")

3. CIO 部会及び CIO 関連イベント参加

参加者 : 武田 廣
 (随行者: 蛭名 邦禎)

4. 一般セッション (口頭発表) 発表

発表者 : 熊本 悦子 (情報教育 (1) 12月8日)
 題目 : 神戸大学における情報リテラシー教育の取り組み
 ～ 全学共通教育科目「情報基礎」～

概要 : 本学では2004年度より大学入学時に新入学生全員に対して, 大学生に必要な情報リテラシーの習得を目的とし, 必修の共通教育科目「情報基礎」を実施してきた。講義内容にはセキュリティや情報倫理のほかに図書館の情報活用など基礎的な内容が組み込まれている。約2,700人の新入生を二十数クラスに分け, 複数の担当教員で講義を行うにあたっての, カリキュラム作成, e-Learning システム開発・整備, 運用などにおける取り組みについて報告する。

発表者 : 鳩野 逸生 (情報基盤とその運用 (1) 12月8日)
 題目 : 神戸大学全学無線 LAN システムの利用状況分析
 概要 : 神戸大学では、2009年に全学ネットワークの更新を実施したが、その際に、全学を対象とした認証付き無線 LAN システムの導入を行った。導入以来、年々利用者が増加しつつあるが、特に本年に入って急激に利用状況が変化している。本報告では、無線 LAN システムインフラ側の利用記録情報を用いることにより、利用者種別、利用機種などの推移を分析することにより、利用者の無線 LAN システムの利用状況の現状分析・予測を行う。

発表者 : 伴 好弘 (情報基盤とその運用 (3) 12月9日)
 題目 : 神戸大学キャンパスネットワークにおける仮想化技術について
 概要 : 大学 ICT においてキャンパスネットワークは、機能を実現するために今までに無く必要不可欠なシステムとなっている。神戸大学でもそのような背景から、従来から運用されている教育研究系ネットワーク以外に、事務システムネットワークやその他の専用ネットワークが敷設されてきた。この状況は、ネットワークの運用を複雑にし、コスト面でも効率的とはいえなかった。そこで、これら性質の違う複数のネットワークを仮想化し共通の機材で利用できるようにネットワークの更新を行った。本発表ではキャンパスネットワークに対して仮想化技術をどのように利用したかについて述べる。

5. 年次大会参加報告

参加者：鳩野 逸生

(Pick up)

1. 情報倫理とセキュリティ
 - ・ 情報倫理ビデオを用いた学習手法(北海道大学)
2. 情報基盤とその応用
 - ・ 名工大における大規模ダイナミック LAN ネットワークの管理・運用
3. これからの大学での情報教育
 - ・ 同志社大学

(全体を通じての感想)

1. 分野横断の総合的な取り組みが必要
 - ・ ICT 専門家, 教育学, 経営, ...
 - ・ 狭い分野だけでは発展は不可能
2. システムティックな研究・実践
 - ・ 失敗リスクを軽減
 - ・ 総じては, 研究・教育へ貢献

参加者：尾川 正美

(Pick up)

1. 大学におけるソフトウェアライセンスの現状と今後の課題
 - ・九州大学, 名古屋大学, 早稲田大学の現状と今後の課題
2. 大学の事務情報化の経緯と現状
 - ・慶応大学, 同支社大学, 熊本大学, 九州大学の取組状況
3. 特別講演
「大学の情報通信基盤に関する東日本大震災による被災状況」と「防災対策と災害時におけるBCP（事業継続計画）について

(雑感)

1. 日本版のCDSを次回迄に実施するという意欲的宣言、参加機関として、今後の協力が必須。
2. ポスターセッションでは麗澤大でのNetwork Switchの温度監視を効率的に実施した方策の展示は本学に適用しても直ちに役に立つ物だと感じた。
3. 展示会では九州大学のソフトウェア配布システムは本学で利用させて貰える有効なツールであり、コンタクトパーソンと交流できた。
4. パラレルセッションは部屋が狭かったり、発表時間が短い等、折角の発表が十分に理解されない、議論できないなどの点で、運営上の問題が多く、今後の改善が望まれる。
5. AXIESに最も期待できる事は、CIOを含めた大学同志の協調活動を直接議論し企画できる点。

参加者：北内 一行

(Pick up)

1. 大学の競争力を高める、クラウドへの道
 - ・国士舘大学と徳島大学のクラウド移行事例
2. 新しいメディアの利用（2）
 - ・京都大学におけるクラウドメールサービスの運用

(まとめ)

1. クラウドは魔法ではない
 - ・クラウドにすると何でも解決するわけではない
 - ・移行するにも膨大な労力と費用が必要
 - ・各種類ごと、各メーカーごとクラウドサービスのメリット・デメリットを知り、移行するサーバやシステムにあったものを選択する必要がある。
2. クラウドの世界は日進月歩
 - ・数ヶ月単位で変化

参加者：田坂 和博

(Pick up)

1. 大学におけるソフトウェアライセンスの現状と今後の課題
 - ・九州大学, 名古屋大学, 早稲田大学の現状と今後の課題
2. 高等教育機関におけるソフトウェア開発とソフトウェア著作権について
 - ・計算機のプログラム, 授業コンテンツ, 大学が開発したソフトウェア

3. 情報基盤とその運用 (1), (3)

- ・ 東北大学における退職者の継続利用を考慮したメールサービスについて
- ・ 京都教育大学でのデータセンターの利用事例について

(情報基盤についての考察)

1. 各大学それぞれの事情により、さまざまな情報基盤を検討構築している。
退職者へのメール利用については興味深い内容であったが、検討の余地が残るという点で、本学での実施を検討するにあたり問題になると考える。
2. また、本学附属病院では独自にメールサーバを構築しているため、ユーザ管理システムのデータにとらわれない運用を行うことで、その問題をカバーしていると思われる。

以 上